

令和5年度仁木町地域おこし協力隊活動報告書

氏名	齊藤 和世	活動年数	1 年
活動目標	<p>①ワイナリー設立に向け、ワイン用ブドウの栽培方法、醸造方法の知識習得に務める。また、レストラン併設ワイナリーを希望しているため、料理とワインのペアリングを常に勉強する。</p> <p>②レストラン併設ワイナリー開設に向け、店舗付き農地の取得を目指した活動を行う。</p> <p>③ワイリングウォークフェスやワインマラニックなどのワインイベントでスタッフとして参加し、体感して次年度に活かす。</p>		
活動内容	<p>①1年を通し、研修先にてワイン用ブドウ栽培の仕方を学んできた。特に重要なことは、ブドウの状態や天候など様々な側面を見ながらその時に適した処方や栽培をすることだと感じた。また、1年間でどのように作業していくのかも知ることができた。醸造では研修先の他にも数件手伝わさせていただいた中で、自分の理想のワイン造りに必要な知識を得ることができた。ワイン用ブドウの醸造は1年に1度しかなく、失敗できないというプレッシャーの中、どのワイナリーでも「自分たちのワインを造るんだ」という強い気持ちを感じられた。どのようなワインを造りたいかを常に念頭に置くことを大切にしていく。</p> <p>②農地取得の件は、農業委員の方や、地域おこし協力隊OBの方に情報をいただきながら探すが、中々希望の農地がなく、もちろん倉庫がある農地もなく、次年度も引き続き取得に向けて活動する。店舗付き農地の習得は難しいので、新築する方向で考えている。</p> <p>③初めて仁木町のイベントに参加させていただき、どのようなものか体感し、仁木のワインの可能性を更に感じる事ができた。研修やセミナーにも参加させていただき、ワイナリーによって栽培法や理念が違うと思うが、ワイン用ブドウ栽培の基礎を学ぶことができた。</p>		
自己評価	<p>●一年間の自己評価及び進捗状況</p> <p>1年を通してワイン用ブドウ栽培、醸造の研修ができたことは、間違いなく今後の自分の基盤になった。また、延々と続く作業や気候によっては厳しいと感じる日もあったが、日々情熱をもって取り組むことができた。健康管理もしっかりできて、ほぼ体調を崩すことなく研修できた。イベント参加では、何ができるか考えながら行動するよう心掛けたが、まだまだできることがあったと感じるので次年度は更に積極的に行動する。</p>		

抱負	<p>2年目の研修は、更に知識を深め、自分ならどうするか考えながら行動していく。</p> <p>また、行けるワイナリーには積極的に研修に行き、様々な栽培法、醸造法の知識を習得する。</p> <p>農地取得に向けて行動し、3年目には畑を習得、レストラン開業の目処が立つようにする。</p> <p>イベントは、実行委員に入るなど、一歩進んで自ら指示を出せるようにする。</p>
----	--

その他	
-----	--

ブドウを収穫しているところです。



活動写真